

TOPICS  
2

# 土山家住宅 (土山宿本陣跡) 国の登録有形文化財に!

●問合せ：歴史文化財課 普及活用係  
(Tel)69-2252 (Fax)69-2293

土山町北土山に所在する土山家住宅(土山宿本陣跡)主屋、離れ(玉座)、土蔵、米蔵の4棟について、令和4年11月18日開催の国の文化審議会の答申を受けて、国の登録有形文化財(建造物)に登録されることとなりました。これにより、市内の登録有形文化財は22件となります。

土山家は、江戸時代前期以来幕末まで東海土山宿の本陣を務めた旧家で、寛永11年(1634)の徳川家光上洛の際に本陣職を拝命しています。また同家には、本陣の休泊記録である「宿帳」(市指定文化財)をはじめとする多数の古文書や調度品等が伝えられています。本陣職が廃止された明治3年(1870)以降は、土山の特産であった茶を家業の柱とし、時代に合わせて柔軟な姿勢を持ちながら、現在の第14代当主まで、脈々と受け継がれてきました。

特に、明治天皇が東幸\*の際、休泊所となった離れ(玉座)は、歴代の土山家当主が重要視し、当時の雰囲気を感じられるだけ残すよう努力が続けられ今に至った建物です。内部は、従来から公開(予約制)されており、伝来の古文書や調度品の展示も行われるなど、土山宿の歴史文化を知る大切な場所となっています。

また、昭和35年(1960)に竣工した主屋は、地域の希望と当主の思いから、外観・間取りに極力本陣当時の趣が残され、土山宿のシンボリック存在として、地域にとって重要な建物であったことがうかがえます。

なお今回の登録に際しては、滋賀県ヘリテージマネージャー(歴史的建造物保存活用推進員)の協力が得られたこともあり、円滑に登録への調査を進めることができました。

今後も、所有者、地域、専門家とともに甲賀市を代表する東海土山宿の魅力発信を行います。

※天皇が自ら東京へ移動すること



▲土山家住宅(土山宿本陣跡)主屋外観

TOPICS  
1

# 受章おめでとうございます ございます

令和4年秋の叙勲と褒章、第39回危険業務従事者叙勲で市内から次の方が受章されました。

## 秋の褒章



黄綬褒章  
安井 敬一氏  
(土山町前野)

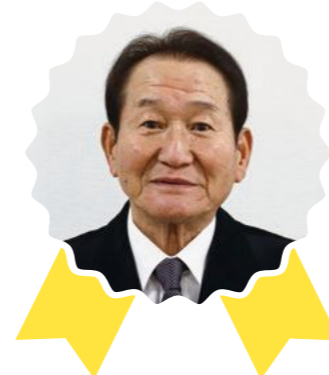
昭和40年に就農後、土山町の集団茶園の造成に尽力され、地域に先駆けてかぶせ茶生産に取り組み、全国茶品評会で農林水産大臣賞を受賞するなど、第一人者としてかぶせ茶の生産技術の向上と産地形成に貢献されました。また、土山町茶業協会会長として関西茶業振興大会と全国茶まつりの地元開催に尽力され、地域茶業の振興と発展に貢献されました。



藍綬褒章  
大谷 真五氏  
(信楽町宮尻)

昭和63年4月、信楽町消防団員に任命されて以来、精力的に消防活動を行い、火災現場はもとより、その他の災害現場においても第一線で中核的な存在として活躍されてきました。常に職責を自覚され、職務を忠実に遂行されました。

## 秋の叙勲



旭日双光章  
辻 重治氏  
(甲賀町毛枚)

平成16年の甲賀市合併以降、17年1か月にわたり甲賀市議会議員を務められました。各種委員会委員長や議長などの要職を歴任され、円滑な地方行政の推進と発展のために奔走、尽力されました。



瑞宝双光章  
治武 俊明氏  
(水口町新城)

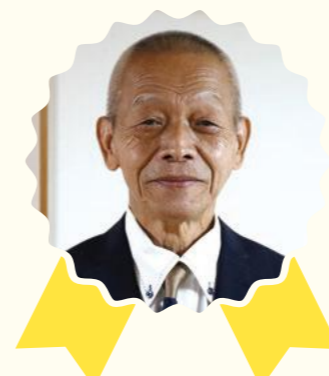
公立中学校長として、地域の特色を生かした学校経営に邁進するとともに、県小中学校教育研究会総合学習部会長や県中学校体育連盟支部長などを務めるなど、甲賀市はもとより、全県的にも指導的な立場で教育実践を進められました。



瑞宝単光章  
藤井 日出男氏  
(甲南町寺庄)

昭和59年4月、甲南町消防団員に任命されて以来、常に職責を自覚し、職務に精励されました。副団長として災害の防止に尽力されるだけでなく、部下団員の火災現場等における安全の確保や技術の向上に力を注ぎ、現在までの甲賀市消防団の発展に寄与されました。

## 第39回 危険業務従事者叙勲



瑞宝単光章  
岡村 典明氏  
(信楽町神山)

昭和49年4月、滋賀県巡査を拝命され、36年の長きにわたり警察職務に精励し、特に地域警察部門において活躍されました。駐在所勤務を通じて地域住民の安全安心の拠り所となるなど、各種犯罪の未然防止に大きな成果を挙げられました。



瑞宝単光章  
伴 政善氏  
(水口町牛飼)

昭和48年4月、甲賀郡消防本部の発足とともに消防吏員を拝命され、消防業務に精励されました。平成19年4月には、湖南中央消防署長に任命されると、職員教育の充実強化を提唱され、職員の意識の高揚と知識・技術の伝承に全力を傾注されました。